

アスパラガスの伏せ込み資材としての 籾殻堆肥および籾殻の利用

福島県農業総合センター 会津地域研究所

1 部門名

野菜－アスパラガス－作型・栽培型

2 担当者

芳賀紀之・大竹真紀

3 要旨

アスパラガス伏せ込み促成栽培において、伏せ込み床の省力・軽労化を図るため、軽量かつ入手しやすい籾殻堆肥や籾殻を検討したところ、伏せ込み資材としての適性が高いことを明らかにした。

(1)籾殻堆肥および籾殻(前年産)の利用により、山砂に比べて、収穫初期のピークが早まり、収穫初期の収量が多くなる(図1)。また、山砂と同等以上の収量が得られる(図2)。

(2)籾殻は、当年産をそのまま利用するより、前年産を野積みにして雨ざらしにしたものの方が適する(図2)。

籾殻堆肥は、完熟したもの(粉碎籾殻に石灰窒素、発酵促進剤を処理)を用いた。

(3)籾殻堆肥および籾殻(前年産)の利用により、電熱線加温による消費電力量を4～5割程度削減できる(図3)。

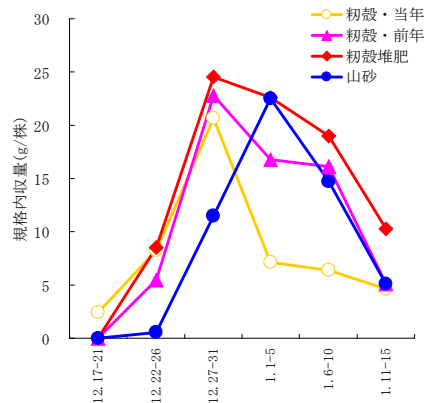


図1 収穫初期における収量の推移(5日間隔)

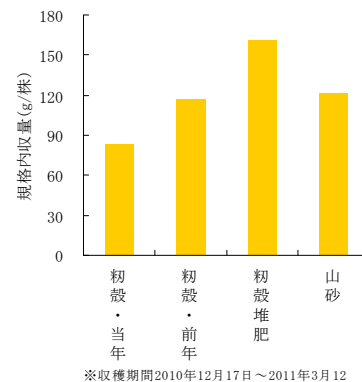


図2 伏せ込み資材別の収量

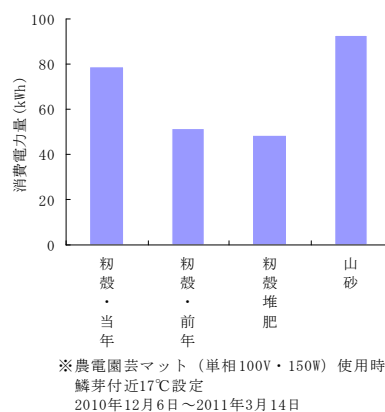


図3 電熱線加温による消費電力量

4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成21～23年度

(2) 研究課題名 寒冷地特性を活用した国産アスパラガスの周年供給を実現する高収益生産システムの確立

(3) 参考となる成果の区分 発展見込

5 主な参考文献・資料

(1) 平成23年度センター試験成績概要

